

春～夏の各地の活動

東北にも暑い夏がやってきました！夏休みには、全国各地や海外からたくさんのボランティアが駆けつけてくださって活気のある活動を行うことができました。各地で春から夏にかけて行われた活動の一部をご紹介します。

郡山緑ヶ丘仮設住宅での3B体操教室。体をほぐしてリフレッシュ。



北海道連合少年少女夏休みプロگرامとして行われた野田村仮設住宅訪問活動



かき氷、歌、学習支援など、仮設住宅の子ども達と楽しい時を過ごしました。



郡山緑ヶ丘仮設住宅で野菜を配布し、喜ばれました。



女性連合実行委員の方々が全国の銘菓を持ち寄りお菓子パックを仮設住宅に届けました。



巨理町宮前仮設住宅で、洋光台教会のハンドベルクワイアがコンサートを開いてくださいました。



集会所に出てこられない方々との玄関先での交流も大切です。

巨理町宮前仮設住宅の様子。住民の方々がお昼ご飯を用意してくださいました。一緒に「おいしいね〜」も、大切な時間です。



月に1回の石巻市牡鹿半島での活動。仙台教会のコーディネートのもと、仙台地区の5つの教会で力を合わせた協働の場です。



牡鹿半島では現在 144 世帯分の葉物野菜をお届けしています。現在でも仮設と在宅両方の支援を続けています。



牡鹿半島にて。西南学院大学ボランティアによる歌披露！



安渡地区ではいくつかのボランティア団体と協力して活動することがあります。皆でハシヤ。



安渡小の3階で発見されたオルガンを、住民の方が「バプテスト教会用に。」と修理してくださいました。懐かしい音色と共に、楽しい歌声カフェがいつまでも続きました。



石巻市立町仮設ふれあい商店街で。福岡女学院看護大学生ボランティアによる踊り。



西南学院大学ボランティアによる学習支援。夏休みの宿題に取り組みました。「一緒に勉強すると楽しいね。」



吉岡伝道所では「ありがとう熊さん」が支援物資を受け入れ、被災地へ届けています。

テキサスからの支援に感謝

テキサスからゴスペルチームが東北を訪れてくださり、7/25(水)~26(木)には大槌町や盛岡で、27(金)には青森で行われた信徒大会で、7/30(月)~8/1(水)には亙理町や仙台でそれぞれコンサートを行っていただきました。テキサスからは継続した支援をいただいていますので、その一部を感謝してご報告します。



☞☞☞仙台ではワークショップに90名、コンサートには550名、宮前仮設では30名ほどの参加があり、信仰で歌うゴスペルに感動!



☞テキサスゴスペルクワイアを宮前仮設住宅の方々が「流しそうめん」でもてなしてくださり、日本の夏と一緒に味わいました!



☞☞大槌町の復興されたショッピングモール「シーサイドタウンマスト」でのライブ。岩手県公会堂では子どもたちがクワイアと一緒にステージに立ちました。



☞釜石唐丹地区で、目に見える大きなものは片付き始めましたが、まだまだ課題が山積んでいます。心を合わせて祈りました。



☞岩手県沿岸の被災地に物資を届けた時の様子です。宮城県内の被災地も積極的に訪問し、現地の方々と良い交わりがもてました。キッチンカー「なごみカフェ」の前での一枚。



☞大富教会において、テキサスチームが子どもたちのためにプログラムをもってくださいました。



☞テキサスからの支援金を受けて、連盟として小釜第四仮設住宅の集会所を増築することができました。



東日本大震災と原発事故が
問いかける宣教・神学フォーラム
6/28(木)~30(土) 於: 仙台

「現地支援委員会のこれから」

(フォーラムで行われた現地支援委員会報告からの抜粋)

…(抜粋) 私たちの支援活動はヒューマニズムに基づくものではなく、教会の宣教の業として行うものです。そのためには一つ一つの支援の働きが「教会の出来事」になっているかどうか、常に自己検証をしていく必要があります。また、大切な募金によって支えられている委員会として、会計の透明性を高めていくことが求められています。仮設住宅の支援活動は、物資をお届けする形での生活支援から傾聴を中心にした心の支援へとニーズが変化してきています。息の長い支援活動を継続していくことで、お互いの関係が、支えるだけの関係から、支え・支えられる関係へと発展していくことを私たちは強く願っています。(大富教会牧師・齊藤弘司)

現地の今

震災から1年半。時間は経過しても癒えない傷があります。それでも少しずつ歩みを進めようとしている現地の様子の一部をご紹介します。



山元町でも、津波で破壊された後 手付かずだった家屋の解体が始まりました。



石巻で被災して使われなくなった火災の跡が残る小学校の校庭で、少年野球チームが練習をしていました。「僕らは負けない」の横断幕と共に。



牡鹿半島の漁船。国からの補助を受けて新しい船が届き始めています。



牡鹿半島の牧浜と月浦の冠水の様子。震災で地盤沈下したため、満潮時には漁港に海水が上がってきて水浸しになります。漁港を再建するには、まずかさ上げしなければいけません。

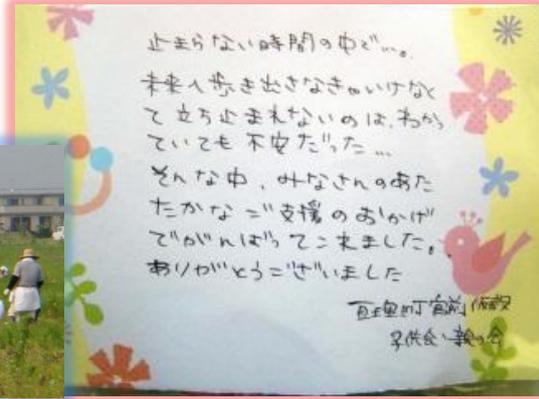


毎月、郡山教会では、水道水のサンプリングを行い、連盟事務所でバクテリル検査を受けています。



巨理町では、津波をかぶり荒れ果てた農地の瓦礫拾いと草刈のアルバイトをしている方もたくさんいます。

冠水のため橋がかかけられている高さまでかさ上げしなければいけません。加工場建設もそれからです。



巨理町宮前仮設住宅子供会・親の会からメッセージをいただきました。このメッセージはこの一年半お祈りとご支援をくださった全ての方々へのメッセージです。感謝。



宮城県海岸線沿いに続々建設されている瓦礫焼却場。



新たな堤防の建設もようやく始まりました。



石巻市立町商店街川開き祭り。

女性連合とA P B Fの募金から福島の子どもたちを県外に出して過ごす子ども避難プロジェクトが行われました。青森県の白神山地でトレッキングを行ない、楽しいひとときを過ごすことができました。ご支援ありがとうございました。



仮設住宅を出て、また震災が起こったら確実に津波がくる場所に帰らなくてはいけない方がいます。一メートル以上の盛土をして家を建てるそうです。



小錠第4仮設住宅の皆さんによる、バラの形のアクリルたわし。



◆今号に掲載していない被災県内の教会・伝道所の様子も、次号以降、順次お知らせしていきます。